

令和 3 年度 保育所保育士・幼稚園・認定こども園 教員等加配職員研修会アンケートのまとめ

- 1 目 的 特別な支援及び特別な配慮が必要な子どもに関する研修を通して、保育士や幼稚園・認定こども園教員の資質及び専門性の向上を図る
- 2 主 催 宗像市教育委員会（子ども育成課）
- 3 期 日 令和 3 年 7 月 2 7 日（火）
- 4 会 場 宗像市役所（103 会議室）
- 5 対象者 保育所・幼稚園・認定こども園・届出保育施設職員（加配職員）
- 6 講 義 「発達が気になる子への生活動作（やりとげる力）の教え方」
講師：鴨下 賢一 先生（専門作業療法士）
（株式会社 児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルーム「かもん」）

1. 配慮を必要とする子どもの対応について、理解を深めることができましたか。（回答 21 人）

4：とても・・・19人 3：まあまあ・・・2人
2：あまり・・・0人 1：全く・・・0人

2. 今回の研修で、新たな気づきがありましたか。（回答 21 人）

4：とても・・・19人 3：まあまあ・・・2人
2：あまり・・・0人 1：全く・・・0人

3. 今回の研修を受けて、具体的に仕事に活用することができるといったことについてお書きください。

- ・叱られない環境、集中しやすい環境など、まずは環境を整えることが大切なのだと改めて感じた。自分のクラスでも小さなことから変えていければと思う。
- ・されると困る事はできないように環境づくりをする。
- ・姿勢が良くない子が多く悩んでいたのも、手押し車からやってみようと思った。
- ・自閉症児を受け入れ予定のため、本研修で学んだことを活かしたいと思う。環境や全職員で共通理解し、統一して進めたいと思った。
- ・園全体で見守る、共通理解が必要だが、うちの園はなかなか理解してもらえず難しい。今回の研修に参加してほしかった。
- ・園内でエジソン箸や三角鉛筆を使っていた職員への理解を得られるのではと思った。職員で対応や指導を統一する良い機会になると思う。
- ・鉛筆の持ち方とお箸の持ち方の関係性が理解できた。無理にお箸を練習させようとするのではなく、楽しく、絵を描く中から指の使い方を見ていき、お箸につなげることが大切だと思った。
- ・箸の使い方や鉛筆の持ち方について洗濯ばさみを使用した遊びを取り組んでいきたい。また、手押し車等も行っていきたい。
- ・通常箸を持つようにしていくために、エジソン箸が有効ではないという根拠が具体的に分かったので伝達していきたい。
- ・食事の取り組みはとても勉強になった。加配の子以外でも姿勢の崩れが気になる子などは普段の保育中でもあるので、園に持ち帰り共有したいと思う。
- ・ダウン症の子の食事の仕方について改めて考えてみると今見ている子はまる飲みになっていることもあるので実践してみたいと思う。
- ・普段取り組めることの椅子をしまう、靴を揃える、お茶は座って飲むなど細かいところでも、自分たちの声掛け次第で子ども達が成長できると思った。
- ・言葉かけは気にして発しているつもりでも「なるほど！」と思う場面があった。
- ・気になる子に何回も同じことを言うのを辞めて、その子にとってメリットになりそうな伝え方をしていきたい。
- ・言葉かけや指示の仕方では自分の言い方では子どもに伝わりづらいところも多かったなと気づけた。タイマーやカードなども、次に楽しいことがあるという意味ではなく、楽しいことが終わる時に使うことが多いので子どもがもっと「楽しい」「やってみたい」という気持ちになれるような道具の使い方や言葉かけを心がけようと思う。
- ・今までの経験や周りの先生たちから聞く情報で実践していた保育を見直す良い機会になった。
- ・気になる子だけでなく、姿勢や食事、箸の使い方は一緒に生活している子ども達にも使っていける事だと思った。やり方が具体的に分かり実践しやすいと思った。
- ・今、感覚探求タイプの子を担当しており、椅子をガタガタ鳴らして回ったり、手あたり次第に物をガタガタさせてまわるので、制作など着席して活動する前は、たくさん身体を動かす機会を作ってから取り組ませてみようと思う。

4. 本日の研修の感想をお聞かせください。(印象に残ったこと、今後活かしたいことなど)

- ・道具を使った研修でとてもわかりやすくたくさんの学びがあった。(しつけ箸、マグが必要なのは初めて知った。)
- ・すべり止めを使うだけで姿勢のキープがあれだけ違うのには驚いた。また、どのように箸の持ち方を伝えればよいかわからなかったのととても勉強になった。
- ・生活リズム・様々な行動・姿などしっかり確認して適切に対応・指導していくことの大切さを再認識できた。
- ・指導以外の時間でも関係を深めておくことの大切さを改めて実感できた。
- ・手押し車はなるほどと思い、楽しみながらできると感じた。また、なぜできないのか、原因をつきとめてゆっくりその子に向きあいたいと思った。
- ・対応に困った際の関わり方のヒントを知ることができ、明日からの保育に実践していきたい。また、園全体で対応を統一することの大切さも学ぶことができてよかった。
- ・鉛筆と箸の持ち方が通ずることを知り、なるほどと思った。また、かき込み食べが日常化しているので、すこしずつ改善援助をしていこうと思った。
- ・質問内容について具体的にアドバイスをくれて参考になった。また、実際に子どもが動いている姿や指導後の姿を見ることでとてもわかりやすく、さっそく取り入れていこうと思った。
- ・配慮を要する子の行動を見直すときは、まず環境を見直し、整えることが大切だと思った。
- ・給食の具材でも大きさを考え、「かじり取る」ことを大切にしないといけない事が分かった。
- ・主に障がいのある子への話だったが、わが子にエジソン箸やマグを使っていてショックを受けた。
- ・映像をまじえた研修会でわかりやすかった。
- ・今まで自分がしてきたことで間違っていないと感じることができ良かった。これからも子ども達と一緒にいろいろなことに取り組んでいきたい。
- ・発達障害等、勉強をしたこともなく初めて支援を必要とする子を持つことになり不安だったが、今回の研修で少し不安が無くなり、自分でも勉強して実践しながらその子に合う方法を見つけていきたい。
- ・私自身の悩みや自信が持てなかったことを、とてもわかりやすく、かつ、自信を持って保育ができるような言い回しと内容でとても勇気づけられた。
- ・映像をまじえての話で、とてもわかりやすく勉強になった。効果が実際に目に見えて分かり非常に良かった。お箸と鉛筆の連動は教え方に苦戦していたので学べてよかった。
- ・食事の対応でしつけ箸から普通箸に移行するときにいつも悩んでいた。改めてしつけ箸は意味がなかったことを痛感した。スライドを使った体の動かし方がわかりやすく勉強になった。
- ・毎日の生活でやっていることをひとつひとつ丁寧にやることが子どもの生活習慣を身に付けるだけでなく、情緒の安定や自己コントロールにつながるということが印象に残った。見落とさず丁寧にやることを大事にしていきたい。
- ・困り感を理解した上で、その子ができる方法を考えスモールステップで支援していくことを大切にしたい。

5. 今後、研修会で取り上げてほしいテーマや講師、要望などがありましたらお書きください。

- ・保護者対応について
- ・目の合わない子への対応
- ・職員メンタルヘルスについて
- ・縦割り保育について
- ・気になる子について
- ・コロナ禍で家庭でもメディアに触れる時間が長くなった子どもが多くなったと感じているので、現状の暮らしでのメディアとの付き合い方について学びたい
- ・子どもに性についての考え方や指導方法を知りたい
- ・発音や言語の遅れのある子に対して、どのような対応をするのか知りたい
- ・日常生活での対応の仕方、集団生活での過ごし方（まだ障がいの名前がついていない子）
- ・集団生活が難しい時、別室で療育目的で作業（遊び）をさせる時の具体的な取り組み方が知りたい
- ・発達支援・保護者対応（クレーム対応）、虐待児童への対応、保育の環境づくり、未満児保育、以上児保育、幼児の運動、療育について詳しく知りたい
- ・学年、年齢に応じた対応の仕方について